

---

# 案外...

雪之丞

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

案外…

### 【Nコード】

N6170D

### 【作者名】

雪之丞

### 【あらすじ】

俺は恋をした久々に本気で人を好きになっちゃった…そう…遊びなら、簡単な話だった。でも…本気で惚れてしまった俺は…どうした良いか、解らなくなっていたそこで、友人に相談したのだが…

(前書き)

ある日の友人との会話です  
ほぼ、ノンフィクション

「なあ…俺…どうしたら良いかな？」

俺は恋をした

徐々に本気で人を好きになってしまった…

ここ2・3年、遊びでしか付き合うことなんてなかった

そう…遊びなら、簡単な話だった。

でも…本気で惚れてしまった俺は…どうした良いか、解らなくなっていた

そこで、友人に相談したのだが…

「…付き合いたいんだろ？だったら、さっさと告白しろよ」

相談する相手を間違えた…

女性経験が一番豊富な奴をチョイスしたが…

「つつかよ、女なんて向こうから寄ってくるだろ？。頻繁に呼び出しやら、待ち伏せ…で、揃いも揃って<好きです>やら、<付き合いってください>だの…ウザイったらねえよ。お前が、そこまで悩む理由が解らねえ」

告白してきた女性に対して、平気でこんなことを言えるような奴である。

皆、あなたみたいにモテませんから！

確かに、こいつは格好良い

容姿はモデル並み、服のセンスもいい、金もある。

そう、性格以外は、申し分ない

「お前…前に告白してきた相手に、<そう、それで?>とか言っ  
てなかつたっけ?」

「ああ…<好きです>だけ言われてもねえ…<だから?>って話じ  
ゃねえ?俺と、どうしたいって話だよ」

「いや…好きになってほしい、とか…付き合いたいとかって…普通  
は思っくんじゃねえ?」

「俺の気持ちは?大抵、相手のことなんて知らないぜ?」

「じゃあ…お互いを知るために…お友達から…ってのは?」

「はあ?告白してんのに友達って、どう考えてもおかしいだろ」

「…じゃあ、<あなたを好きな気持ちだけでも知っておいてほしい  
>ってのは?」

「ああ…<ありがとう、じゃあ>って答えて帰ってくればいいのか  
?」

…俺の恋愛相談が、変な方向に話が逸れていつてるな…  
てか…開き直るなよ…

こいつに相談した俺が…間違いだった訳で…。

「もう少し、違う言い方あるだろ…」

「気持ちなんて、不安定なんだし。直ぐに変わるっちゅう話だよ」

「お前…いつか刺されるぞ…」

溜息交じりに、これくらいしか言ってやれることがない。

とはいえ、こいつの言うことも理解している

『好き』なんて感情は微妙なもので、ふとしたことで簡単に変わるのだ

こいつに告白して玉砕している女の子たちも、その時は落ち込むだろう

だが、直ぐに新しい<次の恋>をしているのだと思う

…こいつが無事だから、きっとそうなのだろう

<ああ、ヒドイ男だった。次はもっと良い恋愛をしよう>ってな。

こいつと話していると、結局、人は顔や容姿で選ぶんだろうと思えてくる

…俺もそう変わるものでもない。

どこが好きなのか？、と訊かれたら<顔>と多分、答えるのだろうかし。

美しいものを愛するのは、人間の本能だと思う。

美しさの基準は人それぞれだとしても、美しいものに惹かれたり、目が行くのは当たり前のことだ。

ただ…今回の場合、俺は<顔も含めて好き>なんだが…

それを、こいつに説明しても理解してはくれなかった

「人なんてな、見た目が99%なんだよ」

「…性格から人を好きになることも、あるんじゃないか？」

「ああ…それは、容姿がそれなりに基準値を満たしていたからだろうか？」

「いや、だけど…」

「例えを出してやるよ。お前好みの性格の女が二人いたとする。一人はお前が好きな性格条件を9割満たしていたとする、容姿条件は7割だ。もう一人は、性格条件が7、容姿が9。どちらを選ぶよ？」

「…それは、会ってみたいことには…」

「解るだろ？性格は大差ねえんだ、容姿が良い方選ぶだろ？」

「…なんか機械的じゃないか…それ…」

「正論だよ。俺が言ってるのはさ」

「…つまりだ…俺が言いたいのは、恋愛感情なんて殆どが錯覚と思っ  
い込みなんだ。だからよ、告白して、ふられて、次にまたいけよ」

これは、こいつなりの励ましたと理解している

口が悪いイヤな奴だが…それは自分をうまく表現できないだけで…

案外、良い奴なんだ

「なに、ニヤついてんだよ、気持ち悪い」

前言撤回…やっぱ、イヤな奴だわ…

(後書き)

口は悪いが良い友人です

…多分、良い奴です…たぶん…



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6170d/>

---

案外...

2011年10月3日18時55分発行